

自由学園 初等部

初等部校内展覧会・美術展

成田 智哉

自由学園初等部では、この1年間に美術の授業で制作してきた全学年の作品を展示する「初等部校内展覧会・美術展」を開催した。

日頃より、美術の作品を食堂に飾るなど、互いに見合う機会を設けているが、校内展覧会では1年生から6年生までの作品を一堂に飾ることで、生徒たちが作品の鑑賞を楽しみ、また学年を越えて互いに刺激を受けることができたと考え、毎年開催している。

展示する作品は絵画の他、木、糸、布、金属、その他さまざまな素材や手法を用いたもの、合作の作品など多岐にわたる。その集大成を発表したいと毎回の授業を活発に行い、着実に積み重ねてきた。

子ども達にとって、この先の授業に繋がる意義ある美術展にしたいと切に願い発表できるようにと心がけた。

I. はじめに

初等部の美術は子どもの実感を引き出す美術だと考える。本物に触れる学び、学校生活、四季折々の自然、生き物、これらを通して感じたことを素直に表現してほしいと思っている。子どもたち一人ひとりが自分の目で見て感じたことを素直に表すことを大切に、多様な素材を用いながら、キャンパスの自然、行事、他教科での学びも題材として取り上げ、子どもたちの心に響いた時にタイミングを逃さず表現に繋げられるよう授業を行っている。

自由学園の豊かな自然の中で育まれた子どもたちの感性から生まれた美術の作品を通し、子どもたちの成長を垣間見ることができる。

II. 美術展について

4年に1度、生活団から最高学部までの作品をキャンパス全体に展示する「自由学園美術工芸展」を実施する年だったが、コロナウイルスの影響で開催方法を変更し、各部でそれぞれ美術の鑑賞や展示会を行っている。

本来であれば2024年は「自由学園美術工芸展」を行う年であるため、今回の初等部の美術展はいつもの美術展と変更して行った。

1つ目の変更点は展示場所の追加。例年、体育館に作品を飾り鑑賞をするが、今回は野外展示と食堂にも作品を飾った。

2つ目の変更点は自由作品の展示。初等部の子どもの美術に取り組む姿は授業だけでなく、他の場面でも活かされている。そこで授業の作品ではない、休み時間や家庭で制作した作品を募集し、食堂に飾った。

美術や工作が好きだから家で作った作品や初等部で教わった美術の表現や材料をつかって制作した作品など普段の美術の授業では見られない多様な作品の展示を行うことができた。

2024年初等部校内美術展 展示作品数

・1年生…559点 ・2年生…282点 ・3年生…360点
・4年生…353点 ・5年生…245点 ・6年生…201点
・自由作品…18点 ・合計 2018点



2-1 初等部校内展覧会・美術展の様子(体育館)



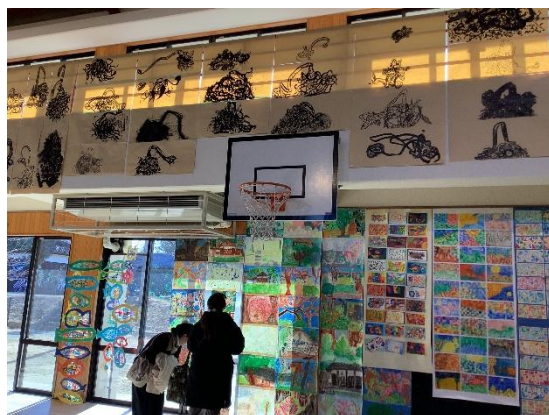
2-2 初等部校内展覧会・美術展の様子(体育館)



2-5 初等部校内展覧会・美術展の様子(体育館)



2-3 初等部校内展覧会・美術展の様子(体育館)



2-6 初等部校内展覧会・美術展の様子(体育館)



2-4 初等部校内展覧会・美術展の様子(体育館)



2-7 初等部校内展覧会・美術展の様子(体育館)



2-8 初等部校内展覧会・美術展の様子(体育館)



2-11 初等部校内展覧会・美術展の様子(野外展示)



2-9 初等部校内展覧会・美術展の様子(体育館)



2-12 初等部校内展覧会・美術展の様子(野外展示)



2-10 初等部校内展覧会・美術展の様子(体育館)



2-13 初等部校内展覧会・美術展の様子(野外展示)



2-14 初等部校内展覧会・美術展の様子(食堂)



2-15 初等部校内展覧会・美術展の様子(食堂)



2-16 初等部校内展覧会・美術展の様子(食堂)

Ⅲ. 主な作品紹介 展示解説

(1)1 年生

1 年生は、楽しく何でも素直に取り組めるのが一番だと考えている。また、感動や発見を、理屈ではなく気持ちのままに制作できるようにしたい。

心を開放して行える授業を目指して、環境を整えたいと考えている。

【動物のデッサン/墨】

校外学習として1年・2 年合同で上野動物園に行き、実際に動く動物の姿をよくみて、鳴き声や匂いなど本物を見ることでしかわからない実感を感じながら行った。

校外学習を終えた後、動物のデッサンから課題を発展させ墨による合作や立体表現へと繋げていった。



3-1 1 年生の制作の様子

(2)2 年生

1年間の経験を得て美術を行うため、楽しく思い切り組みつつ、素材や道具の幅を少しずつ増やしたり、よく見ることを引き続き心掛けて描写できるようにする。

例えば人物を描写する課題においては顔が○、体が□と大きく捉えられるようにし、手足の長さ、顔の大きさ、手の平の大きさなど、よく見ることで気が付くヒントを課題にしながら導入している。

【担任の顔のデッサン/クレパス、紙版画】

担任をモデルに画用紙にクレパスでデッサンを行う。普段一緒に過ごしている担任の顔もよく見ることで目・鼻・口の形、肌の色、体と頭のバランスなど多くの気付きが生まれる。その気付きを大切にしながらデッサンを行い、そこから次の課題の紙版画へと繋げていった。



3-2 2 年生「担任のデッサン・紙版画」

(3)3 年生

中学年になり、さらによく見ることを深められるようにしたいと考える。自分たちが育てている収穫物、動物をいろいろな角度や視点で集中して観察して制作できるようになれるように素材や授業内容を考えていく。また、低学年のときの勢いや活力を損なわないようにしていく。

また、3 年生になり理科の授業が始まることで、美術の視点とは違う視点で自然を観察することができる。理科と美術の両方の視点から自由学園の自然を観察し、触れることでより実感を得ることができると考える。

【うさぎ/コンテ】

毎日自分たちがお世話をしている動物をモデルにデッサンを行った。飼育をしているからこそ気が付くその動物の匂いや感触や骨格やなど自然に観察ができている。色紙にコンテで塗りこみながら、形態を表現していった。



3-3 3 年生「ウサギのデッサン」

(4)4 年生

4 年生では彫刻刀の授業を行う。道具の使い方を知り、安全面に配慮しつつも今まで大切にしてきたよく見ること、低学年のときから続いている勢いや活力の上に、さらに集中して制作できるようにしてきた。

また、合作の課題も取り入れ、自分の表現だけではなく相手の表現や意見も交えながら、制作する難しさや楽しさも学んでいけるようにしていった。

【初等部の風景/合作/水彩絵具】

お誕生日会の装飾として合作を行った。

初等部では、毎月お誕生日会を行い、各学年で順番に担当する。食堂の壁面には美術の授業で制作した作品を装飾し、お誕生日の人に渡すお祝いのカードの制作を行う。生活を彩る大切な取り組みとなっている 70 年以上続いている初等部美術の特徴的な学びである。

今年の 4 年生は初等部の風景をお誕生日会の装飾として制作をした。それぞれ子どもがデッサンをし、その中からお誕生日会の装飾にするデッサンやアイデアを決め、合作を進めていく。

今回は画面を分割して一つに仕上げるという手法だった

ので、特に素材や進め方なども子どもたちが話し合い、相談しながら進めていった。



3-4 4年生合作「初等部の風景」

(5)5年生

高学年となり、扱える道具や素材の種類も増え、表現の幅も広がり、個人制作だけでなく合作も行う。

5年生では、その集大成として「6年生を送る会」の装飾を担当する。その装飾は、内容から話し合いで制作する。そのため、作品制作だけでなくよく作品について考えること、自分だけでなく全体をみること、話し合いや相談をしながら進めることも重視しながら進めていった。

【花のデッサン・デザイン/水彩絵具、屏風、布、フェルト】

理科の「実物標本を作る」という授業の中で、植物の採取と観察を行った。その授業を入口とし、季節の花のデッサンを行い、そのデッサンからいくつかの課題に発展。

白紙の屏風に水彩絵具で花のデッサンを行ったり、花のデッサンをフェルト生地や布を切り、貼り合わせて表現をする課題を行った。



3-5 5年生合作「植物と花」

(6)6年生

6年生は初等部最終学年として、低学年から続けてきた初等部で大切にしてきた美術の学びを活かし授業を進めていく。

教員側が授業を提示し、作品を制作するだけでなく、クリスマスの装飾は何をするのか、卒業制作では何をしたいのか、自分たちで考え、話し合う時間も大切にしてきた。そして、話し合いも作品制作も、長時間集中して取り組むことが多くなっていく。

初等部をよくするために、作品をのこしていくことが、自分たち誇りとなっている。

【卒業勉強 各教室の表示/木版画】

卒業勉強の1つとして6年生が自分たちで考えた課題。各教室にある木製の表示が破損や欠損があるため、それらを作り直しながら、表示がなかった教室にも新しく制作して表示を掲示する、という考えが6年生の中から生まれた。その意欲的な姿勢が崩れないように、教員側は素材や環境を整えて子どもが授業に取り組めるようにした。



3-6 6年生卒業勉強「教室の掲示」

【卒業勉強 クリスマスの合作/木工】

初等部では、毎月のお誕生日会同様、クリスマスにキリストの誕生を賛美する礼拝やお食事時間を大切にしている。その時、食堂を1年から6年までの美術作品で飾り、お祝いの気持ちを表す。その中心を6年生が担当する。

今年は「キリスト教におけるクリスマス」をテーマに、聖書の中からキリスト誕生4のつの場面を木工で表現することに決まった。

木片を小さな四角いチップの形に切り出し、モザイク画のように貼り合わせて作品を制作した。



3-6 6年生クリスマス合作(3)



3-6 6年生クリスマス合作(1)



3-6 6年生クリスマス合作(4)



3-6 6年生クリスマス合作(2)

IV. 美術展を終えて

今年の美術展は初めての試みもあった展示だったが、子どもたちの美術の表現を感じられる美術展になったと感じている。

初等部では、美術は生活のあらゆるところにあり、生活を豊かにするものこそが美術と考えている。歴史や伝統を継承するだけでなく、本物の美術活動をするのが大切であり、自由学園が目指す人間形成の上にも重要な部分を担っていると考えている。

例えば、学園の畑で育てた蕪を収穫したら、初等部の生徒はその日のうちに美術の授業で蕪の絵を描く。子どもたちが描くのは蕪を育ててきた過程、収穫できた苦労や喜びを含め、五感で実感した蕪だからこそ生き生きとした美術の表現ができていた。

美術の教員の役目は絵の描き方や技術を教えることや対象物に対する誤差の指摘をすることよりも、表現する環境を整えて素材を提供することだと考えている。

何よりも子どもの感動や発見を大切に素直に表現できるようにしたいと考えている。

子どもたちは五感をすべて働かせ、感じとって表現している。私達はそのような瞬間を大切に捉えて自由な表現を引き出したいと心掛けていいる。自分の目で見て感じたことを表現するという姿勢を大切にしているからこそ、表現は多種多様な素材や手法で行っている。

また、キャンパスの豊かな自然や初等部が大切にしている本物に触れる学びすべてが、美術と繋がり色や形になって生まれており、たくさんの造形活動を通して、よく見て、よく感じ、よくつくる。子どもたちの純粋な美に対する感覚が培われるように願っている。